

リレーインタビュー

大口町で活躍する社長さんをリレー形式でご紹介いただき、住民有志のおおぐち宣伝部が、大口町にある企業の素晴らしさと、社長さんの人柄をご紹介します企画です。



やませどうぶつ病院

院長 獣医師 山瀬新悟さん

「Compassionate Care!」(思いやりのある治療を!) 米国の獣医師 Dr. Gregory K. Ogilvie の言葉を大切にしています。

Profile

1968 年(昭和 43 年)生まれ

趣味: 浜田省吾さんの大ファンです。年に一度ライブに行くのが楽しみ。浜田省吾さんの曲を聞くことが、日々の活力の源です。

設立 1995 年(平成 7 年)

所在地 大口町さつきヶ丘一丁目 65 番地

TEL (0587) 95-8674 従業員数 3 名

お仕事の内容を教えてください

ここ30年ほどで、ペットを取り巻く環境や考え方も変化し、今ではペットをご家族の一員として、より大切にする時代になりました。専門的な知識や技術が一層求められる時代だからこそ、現在は猫と犬のみを診ています。かかりつけ医として、さまざまな病気の入り口となり、必要に応じて専門的な医療へつなぐことが、地域の獣医師である私の役割だと考えています。



院長の歴史

愛知県で生まれ、幼少期を三河で過ごした後、江南市で育ちました。子どもの頃から昆虫や家畜など、生きものに接する機会は多かったです。両親は、私が拾ってきた犬や猫を飼うことを受け入れてくれるなど、動物に関して寛容でした。そうした環境が、自分の中で獣医師を目指す潜在的な原点になっているのかもしれない。

また、大学の先輩が実家の近くで動物病院を開業されており、獣医師の仕事や開業について気さくに話を聞くことができたことも、将来を考えるうえで参考になりました。もともと生物や理科が好きだったこともあり、農学部の獣医学科に進み、何年か別の動物病院で修業した後、実家の近くでもある大口町で開業しました。

大切にしていること

一番大切にしていることは、ご家族の一員である犬や猫の苦痛をできるだけ減らしつつ、ご家族の意向をくみ取ることです。

望めばさまざまな検査や治療ができる時代だからこそ、ご家族が何を求めているのか、そしてその子のために何が本当に必要なのかを考えるようにしています。ただ治療をして終わりではなく、その命に対してご家族が納得できるよう、できる限り最善を尽くすことを使命としています。同時に、動物自身にとっても、できるだけ負担や不利益の少ない治療を選択したいと考えています。

病院の自慢話

この場所で30年続けてこられたこと。

たくさんの動物病院があり、新しい病院ができている中で、多くの方がやませどうぶつ病院を選んでくださることが自慢です。

やませどうぶつ病院のスター

今、病院に3匹いる猫、「ルフィー」「ぶち」「はちこ」です。ホームページにプロフィールがありますので、良かったら見てください。

